mifi news

宮城県森林インストラクター協会

miyagi prefecture forest instructors association

令和４年3月発行

81

巻頭言

会長　14 期　髙橋　孝紀

今年も１月１５日に山開きを行いました。森の作業開始日に集まった会員の皆様とともに、安全第一でこの一年の森の活動が無事に成就されることを、山の神様にお祈りいたしました。さて、本年は十二支の３番目に当たる「寅」年であります。寅年は、長い冬の時期を終えて森の草木が伸び、新しい成長の礎になる年といわれております。「寅」という漢字の由来もウ冠は家を表し、ウ冠の下の丁字の形は矢を示し、そして、その矢を両手で支えるということを意味しているようです。つまり、真っ直ぐに伸びていく次の世代を仲間で支え育むことを、「寅」という漢字一文字で伝えているようです。協会においても、この春には養成講座を修了した２２期生が会員に加わる年であります。一昨年中止になった養成講座が昨年再開され、２年ぶりの新会員を迎えます。これからの協会を支える新会員の方々とともに、切磋琢磨する日が来ることが楽しみであり待ち遠しい限りです。十二支発祥の地、中国には「初難憚る（はばかる）ことなかれ、久安恃む（たのむ）ことなかれ」という教えがあります。新会員には、様々な活動の中で思い切って前を向き「初難憚ることなかれ」の意気込みで新しい力を発揮していくことでしょう。一方で、迎える私たちは「久安恃むことなかれ」で安逸な生活をむさぼることなく、初心を忘れず、活動の中で新人を支える役割を担っていきたいものです。

今年は新年早々変異ウイルスが猛威を振るっており、出鼻をくじかれた感もありますが、変異ウイルスの推移を見守りながら、新しいメンバーとともに、この一年、安全で楽しい多くの活動を進めていきたいと思います。

活動の安全を祈って

P.1　巻頭言
P.2　Ecolomy がいろん
P.3　事業部報告
P.4－5　活動報告
P.6－7　海岸防災林現地ルポ
P.8　私の一押し／施設だより
P.9　安全／リレー式
P.10　生物多様性を考える４
P.11　防火ルポ／インフォ／編集後記
P.12　活動写真館

Made in Russia多いね

チョットオカシナ社会ヲブッタ伐い

Ecolomyがいろん

「Ecolomy」→ かんきょうニけいざいだ

～やっぱりＳＤＧｓ～

１期　木村　健太郎

私はＳＤＧｓという言葉が大嫌いです。「世界のリーダーたちが作った」という時点で寒気がします。東日本大震災後、みんなが大変な思いでがんばっているのを尻目に、「京都メカニズム」などと格好いい名前で戦争や侵略を繰り返している国々に大金を払ってしまった黒歴史を思い出します。

「地球のために」は必ず裏があり、「ＣＯ２削減」が未だに黒い大きなおカネの流れをつくっています。

欧米人が作ったＣＯ２削減運動の元々の目的は、産油国であるアラブ諸国の発言力をそいでしまうことでした。それが大手の環境コンサルや排出権取引のブローカーや原発推進派等と利害関係が一致したことで世界的な運動に発展しました。

京都議定書では、産油国の力を削ぐという当初の目的は果たせず、しかし馬鹿正直にマイナス６％に突き進んで逆にＣＯ２を増やし、世界におカネをばらまいた上に排出権を買わされた日本が大きく国力を落としたことで、欧米人はそれなりに満足したのでしょう。

昭和の時代に世界の市場を席巻していた日本の名だたる企業は、平成に入るとともにアメリカや中国の企業に次々と市場を奪われ、いまや時価総額で世界の上位に名を連ねる企業は無くなりました。

先日のパリ協定は、カネで雇われたデモ隊や何も知らない若者が大騒ぎしただけで終わった感じですが、ＥＶの推進によって排出権取引を優位に進めたい西欧諸国の自分勝手さは露骨すぎました。

同じく欧米人が作ったＳＤＧｓも、本当の目的は中国やインドやベトナム等、経済発展は著しいものの人権問題を抱えている新興国の発展を阻害することでしょう。ＳＤＧｓはＥＳＧ投資やインパクト投資を狙ったグローバル企業やＥＶを推進する中国と西欧の自動車業界と利害関係が一致し、２０２０年あたりから一気に拡大することになります。

しかし、時すでに遅く、バッテリー市場を牛耳りつつあった中国は「ＥＶの推進」というＣＯ２削減の柱のひとつを追い風にして、西欧諸国を味方につけ、ＳＤＧｓによる「１人勝ち」を狙っていたアメリカを押し込んでいます。すでに多くの日本人が気づいていますが、ＥＶの推進は欧米と中国による“日本の自動車産業潰し”の意味合いもありました。

このような背景から湧き出てきたＳＤＧｓですが、日本の大企業にとっても決して悪い話ではありません。日本のＰＲポイントである里山・環境の良さ・道徳・武士道・人権などを武器に、ＥＳＧ投資やインパクト投資を呼び込む事業を始めるチャンスです。しかし、ＳＤＧｓは大企業に任せるべきで、余計な制度や外郭団体を作ることはやめたほうがいいです。ＳＤＧｓは日本企業が儲けることに徹するべきで、行政や教育がからむと、企業の足を引っ張りそうです。

企業には、特にＧｏａｌ３に取り組んで欲しいです。日本が第一にやるべきことは、精神的不健康による自殺やニート、不登校などを減らすことでしょう。

それでは、世界が第一に取り組むべきことはなんでしょうか。ＳＤＧｓでは無視されましたが、「核兵器を廃絶する」「殺戮兵器の生産をやめる」「紛争や武力による人権侵害をなくす」であるべきでしょう。あらゆる問題を生み出す諸悪の根源です。ＳＤＧｓを作った「世界のリーダーたち」が、こぞって戦争や侵略を始めようとしている時点で無理なのですが。時代は、いよいよ冷戦時代に逆戻りしつつあります。

結局のところ、ＳＤＧｓは欧米人が仕掛けた経済戦争で終わるのでしょう。京都議定書はつば競り合いのようなものでしたが、今回は世界大戦に発展しました。

２０３０年には、１７の達成目標など置いていかれたまま、国ごとの勝ち負けがはっきりしていることでしょう。最前線で戦うのは大企業ですから、国民は日本企業を応援しなければなりません。しかし、相変わらず石油を使って製造しはるばる運んできた外国の水がコンビニの棚を席巻している状態です。最近は、おコメの代わりに「オートミール」なるものを食べる人も増えてきたようで、宮城県民にはいないと思いますが、せめて北海道産のものを食べてほしいです。

しかし、モノを買えば中国へ、パソコンやスマホを使えばアメリカへ自動的におカネが流れる仕組みが既にできてしまっています。日本は、既に外国に乗っ取られはじめているのかもしれません。

いまさらですが、ＳＤＧｓ、変な言葉です。「Ｓ（持続可能な）」「Ｇ（ゴール）」って一体何なのだ。「ゴール」が来た時点で物事は一区切り。「持続」という言葉と並べるのはおかしいのです。「ずっと開発し続けましょう」というのも違和感が半端ないです。

この変な言葉を一生懸命解説しようとしている書籍も多く、私も読みあさっていますが、ここのところ批判的な内容のモノも増えてきたので嬉しいです。

むしろ、もう「開発」はほどほどに、古き良きものを「手入れ」しながら大切にしていきましょう、という方が日本的で優しい。私が子どもたちに伝えていきたいことのひとつです。

新しい期の方々へ　コロナ禍後の活動

環境・森林事業部　３期　原　恒夫

新型コロナウイルスが拡散し始めて３年目に入り、全世界が沈滞ムードの中で当協会も一時はほとんど活動ができない時期もありましたが、屋外で密にならないように心掛けてできうる活動は行ってきました。

これまでの環境・森林事業部は２０箇所以上の企業の森や学校の森などの整備・維持管理とイベント準備が主な活動です。コロナ禍では企業の森イベントの多くは縮小もしくは中止となりましたが、下刈りや枯損木処理などの最低限の維持管理は欠かせません。しかし限られた人員でのフォローには限界があり、対象物件・取り組み内容など精査し、取捨選択しながら取り組まざるを得ないのが現状かと思われます。

今年から県民の森四季の森で、お茶の伊藤園さんが新たに森づくり活動に加わります。場所はかしわ苑からはづきの道入り口周辺を予定しています。現状はコナラ・クヌギ・サクラに笹などが生い茂る雑木林ですが、これからどのような森づくりしていくのか関係者で構想を練り整備計画を立てていきます。

新しい期の方々も計画の立案から藪地の切り開き・地拵えから活動に参加して一緒に汗を流しませんか。

笹藪と格闘、新しい森をつくる

盛況だった「定番ネイチャークラフト研修」

研修部　20 期　鈴木　茂

１月 15 日、10 ㎝程の雪に覆われた青少年の森に 20 名が参加し、事務局３名の講師のもと、座学からスタートしました。

道具の使い方では剪定鋏で手を切らない「バックブロー」、太い枝も切れる「溜め切り」などの技を実演しながらの説明、なるほどと参加者大納得。「これからもケガをしないぞ」と皆さん心の中で誓った様子でした。

バックブローで切る

次は実習です。

- ヤジロベーの作り方、楽しませ方のコツ
- パチンコ枝の選び方、ゴムの結び方
  これ子どもたちに出来るかなと考えながら完成し威力抜群！なかなか奥が深いぞ！
- ブンブンこまの発展型“B4”（ビーズが４個）
- はしゴマ作り
  作成後全員で競争。安定感抜群の「カッター独楽」が一位で、回転時間は事務局も驚く驚異の １ 分 40 秒！！さすが「勝ったー」の所以ですね。
- 干支のトラトラストラップ作り
  顔書きが難しく、猫にも見えるなー？

実演コーナーでは

- 誰でも作れる竹トンボの工程
- つつけん及び廉価版つつけん作りの紹介
- 枝鉛筆づくりコツなど

多彩な内容で技法もステップアップし、実践にすぐ活かせる内容でした。和気あいあいと楽しみながら予定時間をオーバーし 12 時 30 分ごろ終了しました。講師の皆さん、準備・指導ありがとうございました。

研修部では、自然観察、ネイチャークラフト、イベントにも対応可能なスキル習得の研修や更なるスキルアップの場を増やし呼びかけていきますので、皆さんも是非時間を調整し、研修会に顔を出しては如何でしょうか。

新作　つつけん

ふれあい森林教室“高校生版”

２期　進藤　恵美

２月８、９日に久々のふれあい森林教室が開かれました。対象はなんと、高校生！！コロナ禍で宿泊スキー合宿ができなくなって、急遽予定変更、スキー教室は日帰りとしてあとの１日は森の活動をすることになったのだそうです。コロナ感染者が日々増加する中で本当に来るのかとドキドキしながら準備をしました。

８日、明成高等学校スポーツ創志科の２年生 58 名がやって来ました。さすがはスポーツ系、さわやかで動作はキビキビ、挨拶もビシッと決めます。ただ真冬のような寒さの中に防寒着なし、足下はスニーカー。都市部の高校生は長靴なんて履いたこともないそう。その格好で作業は大丈夫だろうかと一抹の不安がよぎりました。グランディの駐車場から「ESD 学びの森」までの引率道中に森の話や森林整備の話をしながら進みました。県民の森に来たのが初めてという生徒がほとんどでした。「ヒノキ」知ってる？と聞いたら、「塾の名前なら知ってるけれど」とさすがに高校生。イノシシが荒らした跡や土砂崩れの現場には驚いた様子でした。

午前は森づくり活動とヒノキの伐採。私が担当した５人クループは遊歩道づくりを担当しました。“店長”の指導のもと、初めて持つクワとカケヤを手に道づくり。体育の授業よりもきついと言いながらも立派に遊歩道を作り上げました。自ら作ったふかふかで歩きやすい道に大満足の様子でした。土を掘り下げるたびに出てくる不法投棄の缶やらガラスにあきれていました。間伐作業では全員で力を合わせて、切り倒すヒノキを引っ張りました。枝を払って丸太にして運搬。頼もしい作業ぶりです。

午後は中央記念館に場所を移してクラフトや身体を使った遊びをしました。プログラムにはフィールドアスレチック１周もありますが、午前で疲れているはずだから行く生徒は少ないだろうという読みは大外れでほぼ全員がチャレンジ、パワフルな高校生を先導する会員も必死でした。運動神経抜群の生徒たちはスイスイとこなし、滑り台では飛んで着地！！！ネイチャークラフトや薪割り、丸太切り、スラックラインにブランコ等盛りだくさんのプログラムに真剣に取り組む姿に若いってすごいなあと、こちらもエネルギーをもらいました。

高校生にも森づくりを伝えたいものです。こんな頼もしい高校生にはまた来てほしいと評判は上々でした。

初めての道づくりに大感激の高校生

チェーンソーづかいになりたい

２期　進藤　恵美

２月１９日（土）、初級者向けの「チェーンソー扱い方研修会」が開かれました。感染対策で人数制限があるため参加は１５名。

まずは基本操作の説明から。刃こぼれ、張りをチェックすること、燃料の入れ方では、２つある口の１つは燃料、もう片方はオイルです。万が一間違ったら絶対にエンジンはかけない、直ちに中身を出してガソリンで洗う！！並べられたチェーンソーはそれぞれ形状が異なるので初心者は混乱するばかりでしたが、最初は取り扱い説明書できちんと確認することが大事だそうです。

「今日は伐倒はありません」の講師の言葉に内心ガッカリした参加者でしたが、会場に行ってビックリ。支障木という理由で切り倒された３０年生のトチやスギがゴロゴロ！！これは切り放題です。初心者と経験者の２グループに分かれて実践開始。

初心者チームは、安全の為に義務づけられたチャップス着用にも一苦労。最初こそ及び腰でしたがだんだん慣れてくると自信もつきます。鍋敷きや鉢置き、腰掛けさらにはまな板にしようとチャレンジ、「ななめってるー」と言われても「今の実力だ」と大事に持ち帰りました。きっとこれからの上達の目安になるでしょう。経験者グループは大径木に挑戦。スウェーデントーチも作りました。

チェーンソーは慣れないと使えない道具なので、これからも作業に参加してどんどん慣れて欲しいと講師陣。毎回女性の参加がないのが寂しい限りですが、尻込みせずに、参加お待ちしています。チェーンソーづかいになりましょう。

県民の森を大掃除　２年ぶりのクリ-ンアップ

令和３年 12 月 11 日（土）、15 回目となる「県民の森ゴミクリーンアップ活動」が開催されました。昨年はコロナ禍で中止だったので２年ぶりです。総勢約 50 名が５班に分かれて園内の不法投棄の回収にあたりました。県民の森の蜂谷所長にお聞きしたところ、２ 年分だったにもかかわらずゴミの量は以前の半分くらいだったとのこと、コロナ禍で移動が少なかったのか引っ越しゴミが減少、目立ったゴミは、タイヤ・家電製品。回収した場所に合わせて宮城県と仙台市が処分するとのことでした。少しカーブで道幅に余裕のあるところに多く捨てられる傾向があるそうで、監視カメラや看板を設置して不法投棄防止を呼びかけているそうです。

１班は協会メンバーに県の自然保護課の小泉主任主査が加わり、７人で１号幹線沿いを歩きました。ゴミの状況チェック地図には９か所のゴミポイントがあり、大きな物では布団、タイヤ、テーブル、電気系統のものなど。がれき袋に詰められるものは詰め、あとは回収車が回収してくれました。プラゴミや缶・瓶などはちょうど人の視界に入りにくい藪や窪地などに車の窓からポイ捨ての様子。中には安全反射ベストや飲食したものなど屋外作業時に使用したと明らかにわかる物が土嚢袋に詰め込まれていたり、ビニル紐で括られた枝の束なども投げ込まれていました。エアコンと室外機がバラバラに散在していた谷間には、小泉主任主査が率先して突入回収。気分もすっきりでしたが、中央記念館近くになると路上にタバコの吸い殻が多く、マナーの悪さと、これからの乾燥した季節が心配になりました。（９期　小島 恵子）

小泉主任主査奮闘中！！

２班５名の担当は青少年の森前、菅野沢溜池から中央記念館に到る２号幹線道路沿いです。土手沿いの薮には空き缶はもちろんトースターや使い古しのバッテリー、そして溜池には古タイヤが浮かんでいて、目一杯腕を伸ばしたりロープに結わえて引き上げたりとゴミを集めるのも一苦労でした。一方サクラ見本園の駐車場は、以前はたばこの吸い殻や不法投棄のゴミが散らばっていたところですが、数年前に監視カメラを付けたことで、不法投棄のゴミはだいぶ減っています。それでも青少年の森から 100m も進まないのに軽トラの荷台は一杯に。近くの溜池は、休日には太公望で賑わう場所ですが、溜池の土手沿いには釣り糸や竿のケース、いらなくなった釣り竿まで捨てられていました。しかしこんなゴミは可愛い物で、「MISAWA オーナーの森」前の土手からは、カセットビデオデッキが次々と出てきて止まりません。最終的に約 200 本近くのカセットデッキが不法投棄。それでも例年に比べ冷蔵庫、洗濯機、テレビといった大物家電の不法投棄がだいぶ減っていて午前中には予定通り作業は終了しました。不法投棄が全く無くなると良いのですが･･･。　（20 期　高橋 秀）

３班は３号幹線を四季の森駐車場から出発。車道脇にはお菓子や弁当の殻、空き缶、中にはアルコール類までも！ 日頃､自然観察や山菜・キノコ取りで鍛えた目が役立ちます。名人はどんどん奥に入って家電やタイヤやバッテリーを見つけ出しました｡｢もうちょっと見えるところに捨ててくれよー｣と冗談も言いながら藪の斜面を下ったり登ったり。買った時の段ボールに丁寧に梱包された電子レンジには、持ち主の常識を疑いました。引き上げには研修で習ったロープワークが役立ちます｡｢ゴミの回収をしているんですよー｣と散策する皆さんにもアピール。すっかりきれいになってすがすがしい気持ちになりました。

（後日談：年が明けてイオンの森に行こうと冬期通行止めになっている林道を散策したら、道路すぐ脇に大量の工事関連ゴミが廃棄されていました。車は通れないはずなのにわざわざ持ち込んだのですねぇ。不法投棄にも相当の労力！！片付けてくれるのを確認しての行為だとしたら悪質！！！）

（２期　進藤 恵美）

なぜ、県民の森に捨てるの？

ｍｉｆｉｎｅｗｓ８１号　　現地ルポ

現地ルポ 第4弾 県南エリア

チーカマこと原田の現地ルポの最終回は「わくわくみやぎの海岸防災林」ガイドマップの県南エリアへ！ 賑わいスポットが創設され、植樹地も順調に育っていました。

「旅を終えて」２月４日の常磐線坂元（新）駅前到着をもって、気仙沼大島から山元町までの県内の海岸林植樹地探訪を無事終了することができました。天候にも恵まれ、沿線の立ち寄りも含めて何とか紹介任務達成といったところです。おかえりモネの番組紹介展（気仙沼大島）、終着地での高架橋に建つ坂元駅などが復興を象徴するようで印象に残っております。（14期　原田 良一）

スタート

1、井土浦・東谷地干潟 サイクリングロードから出発

この海浜は環境省の重要湿地に選定されています。小さな干潟がたくさんあり、チドリやシギなど野鳥の楽園、カニもいます。震災後いち早く復活した湿地です。

2、アクアイグニス仙台

藤塚地区には温泉やレストランを完備した観光施設がまもなく開業予定。

3、かわまちテラス閖上

4、多目的広場で恒例の野球対決！！

5、名取トレイルセンター

みちのく潮風トレイルを歩く上で必要な情報や、ロングトレイル文化を発信する施設。キャンプ場もあるよ。

6、名取市サイクルスポーツセンター

いろんな自転車が楽しめるよ。自転車を借りて海岸防災林植樹地の中をサイクリング♪

ポイント

7、間伐作業が始まっている植林地

大きく育ってくれたクロマツたち。１伐３残が行われて間伐材が山積みに。何かに活用できないものか・・・。

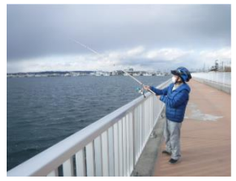
8、千年希望の丘 相野釜公園

避難の丘が点々と連なります。

9、岩沼市寺島川向

10、亘理町鳥の海公園

「わたり温泉　鳥の海」からはスポーツ広場や海が一望できる。



釣り公園
ひさびさに釣り糸垂れて

11、亘理町吉田砂浜海岸防災林

ゴール

12、山元町山寺須賀　順調に育つ

来年は間伐開始

13、坂元川河口 夕日に輝く海に向かって走る！

そして15、坂元駅　旅の終着地

14、キックボードに乗り換えて、

うわぁ、
アクシデント発生！！
愛車がクラッシュ！

＝　施設に勤務する会員の方々から見所やイベントをご紹介いただくシリーズです。＝

【邂逅　春の妖精】

県民の森　１８期　片岡　和義

「私の一押し、施設だより」というテーマの原稿依頼をお請けして非常に悩みました。県民の森中央記念館に勤務する事になってから丸３年となり、この間に公私含めて園内を渉猟してきた身にとっては、四季折々に「一押し」が数多あり、一つに絞るのは至難の業です。会報の発行が３月ですので、ここではその頃の私の「一押し」スポットの一つをご紹介したいと思います。

３月といえば、生きとし生けるものが冬の帳から解放され生命の歓喜に沸き立つ季節です。なかでもいち早く躍動するのが所謂「スプリングエフェメラル」と称される花々です。「スプリングエフェメラル」とは、木々が芽吹く前に早春の陽光を独り占めするように花を咲かせ、木々の葉が茂る頃には姿を消してしまう「春の儚い妖精」というような意味です。代表的なものに、ヤマエンゴサク、イチゲの仲間、ニリンソウ、フクジュソウなどがありますが、なかでもカタクリとショウジョウバカマ（注 1）はスプリングエフェメラルの双璧をなす白眉と言ってよい存在です。

カタクリは“県木の道”の周辺（青少年の森）や“ミサワの森”など、ショウジョウバカマは“ヒノキ見本園”などが代表的な群生スポットで、もちろんこちらも一押しですが、実はこの両雄が混生し、妍を競うように同時に咲き乱れる、絢爛華麗なる極楽浄土（！）が存在するのです。それは“木の実の道”（四季の森）の斜面の一角（注２）に有ります。

薄紫色の反り返る花弁をうつむき加減に咲かせる蠱惑的なカタクリと、薄紅色の花弁を弾ける花火のように咲かせる躍動的なショウジョウバカマが奏でる早春のハーモニーをぜひご賞翫して頂きたいと思います。

(注 1)常緑性だが例外的にスプリングエフェメラルに含まれる。

(注 2)木の実の道は、一部遊歩道の崩落のため現在通行止めになっています（×_×）。管理車道側から入ると崩落箇所の手前にあります。

写真がなかったので、絵にしてみました(^_^;

【ニホンリスの暮らし】

ことりはうす　21 期　平野　あかね

今から 10 年以上前、私が観光客として「ことりはうす」に来ていたころ、野鳥観察室から見える木の上にリスの巣があることを教えていただきました。今考えれば、これがニホンリスとの出会いだったかもしれません。

蔵王のニホンリスは 1～2 月に妊娠、3月頃に出産、5～6 月には子リスが独り立ちします。

リスは樹上に球形の巣を作ります。木の枝を組み、中は杉の木の皮を細く裂いたものを敷き詰めフカフカ暖かな巣です。中に入ると内装の杉の皮で出入口をふさぎます。母リスは子育ての間、何度か巣を作り、引っ越しをするといわれています。野鳥の森にも樹上の球体があちこちにできます。

リスが松ぼっくりをかじることによってできるエビフライは有名ですが、春から夏にかけては新芽、昆虫、虫こぶの中の幼虫など様々なものを食べていることが観察できました。

春、授乳中のリスはお乳がお腹の毛の間からはっきり見えて、巣の中で赤ちゃんがお母さんからミルクをいっぱいもらっている様子が目に浮かぶようです。

初夏、子リスが母リスにくっついて巣から出るようになります。色々なものに興味を示して時々道草を食う子リスを、母リスがそばで待っている姿は微笑ましいものです。子リス同士でじゃれあう姿が見られるのもこの季節です。

リスは夏に向けて冬毛から夏毛に変わります。寒い蔵王だからかもしれませんが、子育て中のメスのリスは毛の生え変わりがオスよりも遅く、オスが背中まで夏毛になっていても、メスは顔や手足の先だけ夏毛となっている場合があり、この季節は背中部分を見ただけでもオス・メスがわかりやすい季節でもあります。

これからの季節、森の中でリスに出会えたら今どんな暮らしをしているのか、想像しながら観察してみてください。

安全のページ　活動を通し安全委員から

15期　太田　厚

コロナ禍で活動に参加することが制約されている中、体温・体調ＯＫで仲間に会え楽しく活動が始まります。

●活動の流れ

受付(体温測定・アルコール消毒)、活動に合わせて装備、全体打合せ、準備体操、装備の追加、乗合わせて現地へ、各班の打合せ、作業開始、終了後青少年の森で道具の片付け、終了打合せ、解散となる。(家まで安全に)

●ここで安全委員から一言

１．全体打合せ時：マスクをつけ、ソーシャルディスタンスをとり作業内容、注意事項の確認、装備の再チェック、疑問の確認をする。

２．体操時：**一番大事なので必ずやること。**

①**準備体操は**、筋肉を伸ばす事で主に柔軟性を目的とした運動で、ケガを予防し次に続く活動の効果を高める。主にラジオ体操第一。または、簡易な組み合わせ体操です。

②**整理体操は**、活動した後のクールダウンの効果とともに、疲労回復を早める。動作毎、呼吸を止めず、２０秒程度ゆっくり伸ばすことで筋や関節をほぐす。

※安全パトロールで、いつも指摘されるのが、フェイスガードの適正な着用、離隔距離、上下作業などの事項です。

３．作業時（ex 刈払い整備作業）

チームワーク良く独断行動をせず、リーダーの下実施する。

刈払い機に燃料を入れ試運転、刃を付ける、移動（刃を前にして担ぐ)、休憩をとり作業をする。

４．終了打合せ時：飲み物・おやつを頂きながら、**活動の成果と反省。そして、怪我及びヒヤリハットの有無に関係なく、必ず行うことが重要です。**

活動は、色々な整備作業・イベントがあります。安全研修会・打合せ時に話された事に注意してほしいです。

全体打合せ時の風景

リレー式会員の広場　バードウォッチング 楽しいよ！

20期　樋渡　悦子

早いもので令和も４年になりました。私は 20 期生として、平成 30 年度の養成講座を受講したので、随分時がたったような感覚です。（今年度は 22 期生なので、まだ新米ですが…）

私が森林等に関心を持ち始めたのは、20 年以上前に、仙台市科学館の親子自然観察講座に参加してからです。興味深い内容でしたので、それからは市政だより等広報誌をチェックし、子どもと一緒に色々と体験しました。もちろん県民の森、ことりはうすにも行きました。環境保護の講演会では、畠山重篤さんの「森は海の恋人」という言葉にインパクトを感じました。

観察会の様子

野鳥観察にも興味がわき蕪栗沼の観察ツアーに参加し、夕焼け空を覆うマガンのねぐら入り、朝の飛び立ちの圧倒的な迫力に感激しました。オオヒシクイ、シジュウカラガン等も見ることができました。

今年１月に参加した、志津川自然の家のバードウォッチングでは天気に恵まれ、コクガン、オオワシなど 34 種の鳥を観察できました。（ホームページに掲載されています）オオワシは、遠くの木に留まり、直視できませんでしたので、次回は飛ぶ姿が見たいです！

私の住まいの近くでは、昔はカッコウが鳴いていました（小学校の校歌でカッコウが歌われています）が、現在は全くいなくなりました。また、３月中旬頃から、ウグイスが鳴き始めますが、最近は外来種のガビチョウが幅をきかせています。身近な所でも自然環境が、変わったのだなと感じます。

１月 29 日に参加した貞山堀周辺の野鳥観察研修では、同期の高橋秀さんに案内して頂き、冬の水鳥カモ類をはじめ、ヨシ原でも色々と見ることができ楽しかったです。森林インストラクターの皆様は、様々な分野での経験が豊富で、いろいろと教わる事で、さらに好奇心が沸いてきます。

子どもたちが自然のなかで楽しく過ごし、森の大切さを学ぶ体験に、私も役に立てるようがんばりますので、皆様ご指導のほどよろしくお願いいたします。

次回は 20 期　寺澤良則さんにバトンタッチします。

シリーズ　＜生物多様性を考える＞４　　野生動物による被害

前回まで、絶滅する生物が増えていること、様々な種類の生き物がいることが望ましいこと、子どもたちに生き物に対する興味を持たせるためのアイデア等を取り上げてきました。

生物多様性を保つことは人間にとっても生活の豊かさ・生態環境の安定を保つために重要ですが、一方ではそのバランスが崩れたために困った問題も起きています。動物愛護や自然保全との間でどう向き合っていったら良いのでしょうか。増えすぎた生き物たちについて考えていきます。

「生き物は大事である、動物にも生存権がある」との考えが広く認められてきています。しかしながら新型コロナウィルスが猛威を振るう中で、人獣共通感染症が注目され、野生動物の監視も課題となってきました。子どもにも身近なアメリカザリガニやミドリガメについては、飼ってもいいが野外放出は禁止とされました。しかしこれら生き物の問題が深刻な事態であることが一般の人々には捉えられていないことが大問題です。問題の存在を知らなければ行動にもつながりません。

先日、夕方のローカルテレビ番組でグランディの駐車場を走り回るイノシシが放映されました。街中でも野生動物に出会える驚き！という乗りでした。県民の森ではイノシシ被害に悲鳴をあげていることこそ知らせて欲しい！！ヤマユリの群生地は消失の危機です。中央記念館、青少年の森、青邨の句碑広場、四季の森内の芝生広場は大きく掘り返され、職員が埋め戻し作業に毎日明け暮れています。苗畑倉庫前の実習畑にはもりもり教室のための野菜を作っていますが柵を設けても食害に合い全滅でした。来園者への被害はまだないものの人慣れすればどんなことになるのでしょう。園内は鳥獣保護区となっていることから積極的な駆除はできないのです。

掘り返された中央記念館の芝生広場

開発により野生動物が減少しているとされたのは過去の話、今や野生動物との遭遇は珍しくもなくなり、イノシシ、シカ、サル、クマなどによる被害が全国で深刻化しています。

特に森林では、シカによる食害が懸念されています。絶滅危惧植物の増加の直接的な原因がシカの食害であることが明らかになっており、更にその影響はその植物を餌としている昆虫類にも及びます。シカはなぜ増えたのか、林業政策の変更や保護政策によって住みやすい環境が作られ食糧が増えたこと、温暖化によって積雪が少なくなったことなどが原因と言われています。

人慣れしたニホンザルが我が物顔で集落内を歩き回り、民家や商店に侵入して食べ物を物色する様子もあちこちで見られるようになりました。洗濯物を外に干せない、窓を開けられないといった生活被害とまでになっています。人が集落を離れて限界集落が増える原因のひとつにもなっています。残された果樹や畑の作物は餌となるのでますます野生動物は繁殖します。

外来種のハクビシンやアライグマに屋根裏や軒下に侵入され、糞尿をまき散らされる被害もあります。居住圏への野生動物の侵入は「怖い」や「汚い」だけでは済まされない感染症の危険もあります。

多様性が叫ばれる中で、人に害を及ぼす野生生物と共生することは可能なのか、考えてみましょう。

（会報委員　２期　進藤 恵美）

県の統計によるとイノシシによる農作物の被害は 1 億円以上にものぼっています。（令和 2 年度野生鳥獣による農作物の被害状況調査結果による）次回はイノシシ被害の実態を取り上げます。
会員の皆さん、情報をお寄せください。

防火巡視同行記：森は緑のダム、そして火薬庫！

９期　小島　恵子

森は緑のダムと言われます。しかし、湿度の低いこの季節は恐ろしい火薬庫でもあると聞きました。昭和58 年の県民の森が焼失した林野火災は記憶に残るところです。その火薬庫という言葉に緊張が走ります。今年も2/15～5/17までの３ヶ月間、防火巡視が行われます。一日も欠かさず行われる防火巡視パトロールは安全の要です。高橋秀さんに一日同行させていただきました。

防火巡視の初日でしたので、全日警の職員の方も来所され、出陣式が行われました。蜂谷所長より、2～3年前までは年に数回出火が見られ、原因は利用者の火の不始末が大半であること、園内より出火がないよう目配り気配りで県民の森を守りたいとお話がありました。また、イノシシが目に付くようになり、身を守るためにも刺激しないようにと注意をいただきました。

防火巡視は県民の森職員１名と全日警スタッフ１名の２名の協同で行われます。まず、二つのグループに分かれどちら方向（四季の森方面⇔青少年の森方面）から巡視するかを決めスタートです。つまり、互いに逆方向からくまなく歩くため、午前・午後と２度園内を巡視することになります。私たちは上からスタートということで椿苑に車を停め歩き始めました。今日は生憎(？)湿った雪が降っており火災の心配はない様子、少し緊張感は緩みましたが、同行者を気遣いいつもよりペースを抑えて歩く秀さんの後ろを、足手まといにならぬようにとアップダウンに息を切らしながらついて行きました。防火に関しては目視が重要になります。防火水タンクの確認はもとよりですが、銜えたばこで散策する人、ゴルフクラブ(使い方によって火花が散る)を持ち歩く人もおり、歩行者への注意喚起も多くなるそうです。また、枯損木・倒木の確認と処理を行いつつ、遊歩道の安全確認も行います。１２時、１５時には巡視状況を無線で報告。一方、県民の森は松陵・鶴ヶ丘・松森・神谷沢団地に接しています。それらの団地を車で移動しながらの巡視も重要です。団地際は枯れ草が目立ち、乾燥しているこの季節の落葉・枯れ草は簡単に燃え広がってしまうだろうと、火薬庫たる所以を感じさせられました。

実は、私はこうして県民の森が守られていることを知りませんでした。連日の細やかな巡視の上に、安心した活動が出来ていると改めて気づきました。この広い県民の森をくまなく歩く、タフな巡視の皆さんに感謝と、あと一言、格好いいです！

ところで、この同行は３万歩に達しました。たくさんの野鳥も観察できました。そして筋肉痛は二日後にやってきました！

遊歩道の安全を確認、色あせた案内地図を交換

令和４年度通常総会のお知らせ

◎ 令和４年６月４日（土）
仙台市市民サポートセンター

状況により変更になる可能性があります。

編集後記▶２０１９年度に鳴り物入りで始まった「森林環境譲与税」。MIFI７４号～７７号の特集でも取り上げてきた。本編でも様々な問題点を提起したが、１月３１日河北新報朝刊に施行からの２年間の総括が報じられていた。残念な事に各自治体に分配された全資金の５４％に当たる約２７１億円が適切な使途が見いだせないなどの理由で利用されず基金としてプールされている事実が明らかになっていた。資金の分配比が各自治体の森林面積だけでなく人口も考慮しているために資金を本当に必要とする自治体に適切に分配されていない問題が挙げられていた。もしかして、今こそ宮城県森林インストラクター協会の出番かもしれない。協会員の力を併せて森林環境譲与税を利用した森林活用や啓発活動を提案し、協会の活動の発展に一役買ってみるのはどうだろうか。（８期石川似子）

募集中

☆会報紙の表紙
表紙を飾る写真・イラスト・絵を募集します。活動中に目にする風景や自然をテーマにお寄せください。

☆紙上講座原稿
皆さんが密かに隠し持っている技術・得意技・情報を紙上で披露してみませんか。　　連絡先　事務局まで

枯損木処理作業

くりーんあっぷ

作戦 12/11

ネイチャークラフト研修 1/15

山開き式 1/15

ふれあい森林教室（高校）2/8

特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会
〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp